

実体経済の動向

◇生産、出荷は減少、在庫は増加

(生産——減少)

5月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比^(注)、速報)は、-1.6%と前月(-1.9%)に続き減少した(前年同月比+1.4%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

5月の動きを財別にみると、建設財、非耐久消費財を除き各財とも2か月連続の減少となった。

すなわち、資本財輸送機械は反動増の船舶を除き小型自動車、トラック、バス等多くの品目が減少したことから、また一般資本財も電子計算機関連が増加したものの土木建設機械、クレーン、農業用機械等が減少したため、いずれも2か月連続の減少となった。さらに、耐久消費財はセパレート型エアコン、電気冷蔵庫等民生用電気機械が増加した反面、二輪自動車、小型自動車、カメラが減少したため、前月に続く減少となり、生産財も

輸出停滞の直接、間接の影響を受け鋼板、化学繊維、プラスチック、一般機械部品等が減少したことから、全体でも2か月連続の減少となった。

この間、建設財は、セメント、コンクリートパイル、小形棒鋼を中心に増加し、また、非耐久消費財も3か月連続の増加となった。

(出荷——微減)

5月の出荷(速報)は、-0.1%と前月大幅減少(-2.8%)のあと微減となった(前年同月比+0.8%)。

5月の動きを財別にみると、建設財、非耐久消費財を除き各財とも前月に続く減少となった。

すなわち、資本財輸送機械は、普通自動車、トラック、船舶等を中心に、また一般資本財もクレーン、エレベータ、農業機械の減少を主因に、いずれも2か月連続の減少となった。

耐久消費財は、エアコン、電気冷蔵庫、小型石油ストーブが増加した反面、二輪自動車、軽自動車、カメラ(フォーカルプレーン式)が輸出不振等から減少したため全体では前月に続く減少となった。さらに、生産財は、輸出停滞の影響を受けて冷延コイル、鋼板等鉄鋼圧延品、化学繊維、タイ

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

| | 56年 | | | | 57年 | | |
|-------------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|
| | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 | 1~3月 | 3月 | 4月 | 5月 |
| 鉱 指 数 | 144.7 | 147.8 | 150.7 | 149.2 | 150.2 | 147.3 | 145.0 |
| 工 前期(月)比 | 0.5 | 2.1 | 2.0 | -1.0 | 1.4 | -1.9 | -1.6 |
| 業 前年同期(月)比 | 0.9 | 4.5 | 5.7 | 3.6 | 4.1 | 1.8 | 1.4 |
| 投 資 財 | 0.4 | 2.6 | 0.8 | 0.5 | 2.7 | -4.4 | -2.5 |
| 資 本 財 | 0.6 | 2.6 | 1.4 | 1.1 | 3.0 | -4.3 | -3.6 |
| 同 (輸送機械を除く) | 1.4 | 2.5 | 1.5 | 1.5 | 2.9 | -3.3 | -3.7 |
| 輸 送 機 械 | -1.2 | 2.5 | -0.2 | 0.0 | 2.2 | -5.6 | -3.2 |
| 建 設 財 | -0.3 | 2.8 | -0.2 | -1.9 | 0.1 | -2.7 | 1.4 |
| 消 費 財 | 0.6 | 2.1 | 3.8 | -1.5 | 1.1 | -1.1 | -0.1 |
| 耐久消費財 | 2.4 | 2.0 | 4.8 | -1.3 | 2.5 | -2.4 | -1.0 |
| 非耐久消費財 | -1.1 | 2.4 | 2.0 | -1.7 | 0.6 | 0.1 | 1.4 |
| 生 産 財 | 0.2 | 1.6 | 1.3 | -1.2 | 0.7 | -0.4 | -2.2 |

(注) 通産省調べ。57年5月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

| | 56年 | | | | 57年 | | |
|-------------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|
| | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 | 1~3月 | 3月 | 4月 | 5月 |
| 鉱 指 数 | 138.1 | 141.2 | 142.1 | 140.5 | 141.5 | 137.5 | 137.3 |
| 工 前期(月)比 | 0.2 | 2.2 | 0.6 | -1.1 | 1.5 | -2.8 | -0.1 |
| 業 前年同期(月)比 | 0.0 | 4.9 | 4.3 | 2.1 | 2.7 | -0.9 | 0.8 |
| 投 資 財 | 0.9 | 2.9 | -0.2 | 0.2 | 2.8 | -5.2 | -1.5 |
| 資 本 財 | 1.5 | 2.5 | -0.1 | 1.6 | 3.4 | -5.3 | -2.7 |
| 同 (輸送機械を除く) | 2.7 | 1.8 | 0.7 | 2.0 | 2.6 | -6.3 | -0.9 |
| 輸 送 機 械 | 0.4 | 6.2 | -3.7 | -0.7 | 2.6 | -0.3 | -6.6 |
| 建 設 財 | 0.1 | 3.1 | 0.2 | -4.1 | -0.4 | -2.1 | 1.2 |
| 消 費 財 | -0.8 | 2.1 | 2.1 | -1.9 | 2.2 | -2.2 | 2.8 |
| 耐久消費財 | -2.1 | 2.0 | 4.1 | -1.5 | 3.0 | -2.2 | -0.6 |
| 非耐久消費財 | -0.1 | 1.7 | 0.9 | -1.9 | 0.8 | -1.4 | 5.6 |
| 生 産 財 | 0.3 | 1.7 | 0.3 | -1.3 | 0.1 | -0.9 | -1.8 |

(注) 通産省調べ。57年5月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

ヤコード、強化ガラス等が減少したため、全体でも2か月連続の減少となった。

この間、建設財は官公需の下げ止まり等を背景にコンクリート管・パイル、鉄骨、H形鋼を中心に5か月振りの増加となり、非耐久消費財も前月減少のあと増加した。

(在庫——増加)

5月の在庫(速報)は+0.4%と6か月連続の増加(前年同月比+2.2%)となり、また、在庫率指数(50年平均=100)も93.5と前月(93.2)に続き上昇した。

5月の在庫増減を財別にみると、資本財輸送機械、一般輸送機械、耐久・非耐久消費財が減少した反面、生産財、建設財が増加した。

すなわち、生産財は冷延鋼板、特殊鋼熱間鋼管、化学繊維、通信・電子部品、一般機械部品等の増加から8か月連続の増加となり、また、建設財も条鋼類、亜鉛メッキ鋼板等鋼材を中心に前月減少のあと再び増加した。

この間、資本財輸送機械は小型自動車、小型トラック等を中心に前月に続き減少し、また消費財も、二輪自動車、カメラが増加したものの、ラジ

オ、ステレオ、エアコン等家電製品や時計、ピアノ等の減少から、全体では2か月連続の減少となった。一方、一般資本財、非耐久消費財はともに前月増加のあと微減となった。

(民間設備投資——機械受注、建設工事受注が増加の一方、一般資本財出荷は減少)

5月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は、電子機械の受注集中を主因に+40.8%と3か月振りに増加した(前年同月比+26.0%)。業種別にみると、製造業からの受注は石油、鉄鋼、自動車、化学等大半の業種で増加したため+36.2%の増加(前月-15.5%)となり、非製造業からの受注も金融・保険等の増加を主因に+54.9%(前月-16.7%)の増加となった。

また、5月の建設工事受注(民間分、速報)は+17.9%と前月著減(-29.0%)のあと増加した。

他方、一般資本財出荷は-0.9%と前月(-6.3%)に引続き減少した(前年同月比-0.6%)。品目別にみると、電子計算機、事務用機械、パッケージ型エアコンが増加したものの、電力・通信ケーブル、クレーン、エレベータ、農業機械等が減少した。

鉄工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

| | 56年 (期末) | | | | 57年 (期末) | | |
|-------------------|-------------|-------|-------|-------|-------------|-------|-------|
| | 6月 | 9月 | 12月 | 3月 | 3月 | 4月 | 5月 |
| 鉄 指 数 | 116.3 | 113.6 | 113.4 | 116.2 | 116.2 | 117.5 | 118.0 |
| 工 前 期 (月) 末 比 | 0.5 | -2.3 | -0.2 | 2.5 | 0.5 | 1.1 | 0.4 |
| 業 前 年 同 期 (月) 末 比 | 6.0 | -0.4 | -1.2 | 0.4 | 0.4 | 1.7 | 2.2 |
| 投 資 財 | 0.6 | -0.3 | -1.0 | 3.9 | 3.2 | -0.2 | -0.5 |
| 資 本 財 | 3.0 | 2.3 | -1.4 | 4.7 | 5.3 | -0.6 | -1.6 |
| 同 (輸送機械を除く) | 4.0 | 0.2 | -1.6 | 2.7 | 1.7 | 2.2 | -0.1 |
| 輸 送 機 械 | 1.1 | 5.8 | -1.3 | 8.8 | 11.4 | -4.9 | -4.1 |
| 建 設 財 | -2.6 | -2.9 | -2.6 | 3.6 | 1.0 | -0.1 | 1.3 |
| 消 費 財 | 1.4 | -2.9 | -1.7 | -0.1 | -2.2 | 1.7 | -1.2 |
| 耐 久 消 費 財 | 1.9 | -1.3 | -1.2 | 1.5 | 0.1 | -0.4 | -0.4 |
| 非 耐 久 消 費 財 | 1.5 | -2.8 | -3.3 | -3.8 | -5.1 | 3.5 | -0.9 |
| 生 産 財 | -0.3 | -2.9 | 1.0 | 4.1 | 1.0 | 1.5 | 1.9 |

(注) 通産省調べ。57年5月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

需要先別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

| | 56年 | | | 57年 | | |
|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|
| | 7~9月 | 10~12月 | 1~3月 | 3月 | 4月 | 5月 |
| 民 需 | 5,437 (-5.2) | 5,778 (6.3) | 6,307 (9.2) | 5,345 (-32.2) | 4,661 (-12.8) | 6,626 (42.2) |
| 同 (船舶・電力を除く) | 4,448 (2.6) | 4,571 (2.8) | 4,484 (-1.9) | 4,517 (-0.8) | 3,890 (-13.9) | 5,478 (40.8) |
| 製 造 業 | 2,341 (-2.0) | 2,551 (9.0) | 2,545 (-0.2) | 2,544 (-2.6) | 2,149 (-15.5) | 2,927 (36.2) |
| 非製造業 | 3,129 (-7.3) | 3,075 (-1.7) | 3,830 (24.6) | 2,901 (-46.0) | 2,638 (-9.1) | 3,588 (36.0) |
| 同 (船舶・電力を除く) | 2,107 (9.8) | 2,047 (-2.8) | 1,958 (-4.3) | 1,998 (1.8) | 1,664 (-16.7) | 2,579 (54.9) |
| 建設工事受注 (民間) | 4,210 (-7.9) | 4,483 (6.5) | 4,535 (1.2) | 5,097 (6.2) | 3,620 (-29.0) | 4,269 (17.9) |

(注) 機械受注は経済企画庁調べ。建設工事受注は建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

◇小売商況——品目によりやや区々の動き

5月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比、速報)は、夏物衣料等が幾分売行きを伸ばしたが、その他品目は低調に推移し、全体としても+4.2%と引続き低目の伸びにとどまった(前月+3.7%)。また、6月入り後の都内百貨店売上高は、中元商戦の出足が例年よりやや鈍いなど引続き一進一退の域を脱していない模様である。

6月の耐久消費財の販売状況を見ると、家電製品は、ステレオ等音響機器やカラーTVは依然不冴えに推移したものの、夏物商品(エアコン、扇風機)は暑気の早期到来もあって好伸した。また、乗用車新車登録台数(除く軽、前年比、速報)は、ディーラーのボーナス需要に向けての拡販努力もあって+17.0%と前月(+14.7%)に続き2桁台の伸びを示した。

◇商況の基調——弱地合い続く

6月の商品市況は、石油製品(精製メーカーの減産強化)、天然糸(円安に伴う輸入玉流入減、夏物衣料の売行き順調)、合板(大手筋の値上げ表明、円安による原木先高感)が上昇したものの、値上げ交渉中の鋼材(条鋼、鋼板)が引続き軟調となったほか、ポリエステル糸、生糸、非鉄(銅、亜鉛等)、化学製品(塩ビ、ポリエチレン)、セメント、砂糖等が統落するなど、総じて弱地合いを続けた。これは、

- ① 輸出が海外景気の停滞持続や輸出先の現地在庫調整から引続き低迷し、これが市況面にも投影していること(冷薄、合織、非鉄)、
- ② 内需についても、官公需前倒し発注の関連資材への波及効果は、ごく部分的にとどまりまだ本格化していないこと(鋼材、窯業製品)。一方、家計関連需要も、個人消費は乗用車や夏物季節商品(エアコン、衣料、飲料)にやや動意がみられたものの、その他品目は総じて伸び悩む

など区々の動きを示し、また住宅投資も依然低迷基調を脱していないこと(製材品)、

- ③ こうした実需低調のもとで、メーカー段階の在庫圧迫が続いていること(鋼材、合織、建材<窯業製品、木材>)、
 - ④ さらに月央にかけて国際原料品市況が急落したこと(非鉄、砂糖)、
- などの弱材料が、全体としては為替円安に伴う市況押し上げ効果を打ち消したことによるもの。

(卸売物価——小幅上昇)

6月の卸売物価は、前月比+0.2%と前月下落(-0.6%)のあと小幅ながら上昇した(前年同月比+1.1%)。国内品・輸出入品別にみると、国内品は、非鉄金属(銅地金、銅裸線)、化学製品(高圧ポリエチレン、塩化ビニル樹脂)等値下り品目が多く-0.3%と下落した。これに対し輸出品、輸入品は、為替円安が響き、それぞれ+2.4%、+2.3%の大幅な上昇となった。一方、加工段階別にみると、素原材料は為替円安の影響から+2.0%と大幅に上昇したが、中間品は建設材料(製材品等)、製品原材料(非鉄金属等)の値下りから-0.4%の下落となり、また、完成品も資本財(農業用機械等)の値下りから-0.1%とわずかに低下した。

(消費者物価——6月<東京都区部、速報>は+0.1%の微騰)

6月の消費者物価(東京都区部、速報)は、前月比+0.1%と小幅ながら上昇した。これは、生鮮食品(果物、野菜等)が-2.4%と統落したものの、生鮮食品を除くベースでは、被服の値上りや公共料金(高速自動車国道料金)の引上げ等から+0.2%の上昇となったことによるもの。なお、前年比上昇率は+2.5%と54年3月(同+2.5%)以来の低率となった。

卸売物価指数の推移

(前月<期>比騰落率・%)

| | ウェイト | 57年 | | 57 年 | | | | | 最近月の 前年 同月比 |
|-----------|---------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------------|
| | | 1～3月 平 | 4～6月 平 | 2 月 | 3 月 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | |
| 総 平 均 | 1,000.0 | 0.2 | 0.3 | 0.5 | 0.1 | 0.3 | - 0.6 | 0.2 | 1.1 |
| 食 料 品 | 140.9 | - 0.4 | 0.2 | 0.2 | 0.1 | 0.3 | - 0.4 | - 0.2 | 0.4 |
| 非食料農林産物 | 18.9 | 1.7 | - 0.9 | 0.5 | 0 | 0.3 | - 2.1 | - 0.2 | - 4.8 |
| 繊維製品 | 62.9 | 0.9 | - 0.3 | 0.3 | - 0.5 | 0 | - 0.2 | 0.2 | 2.9 |
| 製材・木製品 | 33.6 | 1.4 | - 3.1 | - 1.2 | - 0.7 | - 0.8 | - 1.4 | - 1.4 | - 1.6 |
| パルプ・紙・同製品 | 28.9 | 0.4 | - 0.2 | 0.2 | 0.2 | 0.1 | - 0.5 | - 0.4 | - 0.9 |
| 金属素材 | 12.6 | 2.1 | 4.7 | 5.7 | 1.5 | 1.4 | 0.2 | 1.0 | 6.2 |
| 鉄 鋼 | 80.7 | 0.2 | 0.7 | 0.8 | 0.5 | 0.5 | - 0.8 | 0.5 | 0.5 |
| 非鉄金属 | 26.1 | - 2.7 | - 2.5 | 1.0 | - 2.0 | 0.6 | - 1.9 | - 2.5 | - 8.8 |
| 金属製品 | 37.0 | - 0.2 | 0.1 | 0 | 0.1 | 0.1 | - 0.1 | - 0.2 | - 2.3 |
| 電気機器 | 73.3 | 0.3 | - 0.2 | 0.2 | 0.1 | - 0.1 | - 0.3 | 0 | - 0.3 |
| 輸送用機器 | 74.0 | 0.8 | 0.5 | 0.7 | 0.2 | 0.2 | - 0.8 | 1.4 | 1.8 |
| 一般・精密機器 | 95.7 | 0.4 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 0.2 | - 0.2 | 0.1 | 1.1 |
| 化学製品 | 91.1 | 0.2 | - 1.0 | 0.2 | - 0.2 | - 0.3 | - 0.6 | - 0.5 | 0 |
| 石油・石炭・同製品 | 102.2 | 0.7 | 1.8 | 1.3 | 0.5 | 1.1 | - 1.0 | 1.5 | 6.3 |
| 窯業製品 | 30.5 | 0.1 | 0.4 | 0.3 | 0.1 | 0.1 | 0 | 0.3 | 1.3 |
| 電力・ガス | 25.5 | 0.1 | 0.4 | 0.2 | 0.2 | 0.3 | - 0.2 | 0.3 | 1.2 |
| 雑 品 目 | 66.1 | - 0.5 | 0.4 | 0.2 | 0.2 | 0.3 | - 0.2 | 0.1 | - 0.4 |
| 工 業 製 品 | 816.4 | 0.2 | - 0.1 | 0.2 | 0 | 0.2 | - 0.5 | 0 | 0.5 |
| 大企業性製品 | 579.9 | 0.1 | 0.1 | 0.2 | 0.2 | 0.2 | - 0.4 | 0.1 | 0.9 |
| 中小企業性製品 | 214.6 | 0.5 | - 0.5 | - 0.1 | - 0.2 | - 0.1 | - 0.3 | - 0.3 | 0.3 |
| 非工業製品 | 158.1 | 0.8 | 1.4 | 1.7 | 0.6 | 0.9 | - 1.2 | 1.3 | 3.5 |
| 国 内 品 | 801.9 | 0 | - 0.1 | 0.1 | - 0.1 | 0.1 | - 0.1 | - 0.3 | 0.5 |
| 輸 出 品 | 94.2 | 1.5 | 1.5 | 2.2 | 0.9 | 0.8 | - 2.1 | 2.4 | 4.2 |
| 輸 入 品 | 103.9 | 1.2 | 1.9 | 2.6 | 0.8 | 1.2 | - 2.1 | 2.3 | 3.6 |

(注) 日本銀行調べ。

◇経常収支の黒字幅は縮小

5月の国際収支をみると、貿易収支が、輸出減少の一方輸入も大幅な落込みをみたことから、ほぼ前月並みの黒字となったものの、貿易外収支の赤字幅が季節的に拡大したため、経常収支の黒字幅は0.8億ドルと前月(同5.4億ドル)比かなり縮小した(貿易収支季節調整後の経常収支も5.2億ドルと前月<同10.1億ドル>比黒字幅が半減)。一方、長期資本収支は、対内証券投資の流入超幅が大幅に拡大したものの、本邦資本が、対外証券投資を中心に高水準の流出を続けたため5.7億ドルの流出超となった(前月同19.8億ドル)。この間、総合

収支は、短期資本収支が現先取引中心に、流入超を示したこともあって、12.7億ドルの黒字となった(前月31.8億ドルの赤字)。

なお、5月末の外貨準備高は265億ドルと、6か月連続の減少となった(前月末比-2.6億ドル)。

(輸出—減少)

5月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は、-5.2%(前月+4.5%)となり、数量(通関)ベースでも、-8.8%とかなりの減少をみた。品目別(通関、数量ベース)には、鉄鋼・家電製品(テレビ、テープレコーダー等)や二輪車が現地在庫調整の影響から減少したほか、船舶もかなり落込

消費者物価指数の推移

(前月(期)比騰落率・%)

| | | ウェイト | 57年 | | 57 年 | | | 最近月の 前年 同月比 |
|--------|-----------------|--------|-------------|-------------|--------|---------|-----------|-------------------|
| | | | 1～3月 平 均 | 4～6月 平 均 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | |
| 東 京 | 総 合 | 100.0 | 0.3 | 1.1 | 0.7 | 0.2 | * 0.1 | * 2.5 |
| | 生鮮食品を除く総合 | 92.7 | — 0.1 | 1.5 | 0.7 | 0.8 | * 0.2 | * 3.3 |
| | (生 鮮 食 品) | (7.3) | (5.6) | (— 3.3) | (0.9) | (— 6.3) | * (— 2.4) | * (— 8.5) |
| | 食 料 | 37.6 | 1.3 | 0 | 0.6 | — 1.1 | *— 0.2 | * 0.7 |
| | 住 居 | 7.1 | 0.8 | 1.1 | 0.6 | 0.4 | 0.2 | 3.0 |
| | 光 熱・水 道 | 5.5 | 2.4 | 0 | — 0.1 | 0.1 | 0 | 8.1 |
| | 家 具・家 事 用 品 | 4.7 | 0.2 | — 1.0 | — 1.0 | 0.4 | 0.2 | 0.7 |
| | 被 服 お よ び 履 き 物 | 9.4 | — 5.0 | 4.3 | 0.7 | 3.9 | 1.0 | 4.3 |
| | 保 險 医 療 | 3.4 | 0.4 | 0.2 | 0.3 | — 0.1 | 0 | 1.4 |
| | 交 通 通 信 | 9.2 | 0.8 | 1.6 | 0.3 | 1.4 | 0.2 | 4.5 |
| | 教 育 | 6.0 | 0 | 5.8 | 5.7 | 0.2 | 0 | 5.9 |
| | 教 養 娛 楽 | 11.7 | 0 | 1.0 | 0.9 | 0.5 | *— 0.1 | * 1.6 |
| | 諸 雑 費 | 5.4 | 0.3 | 0.9 | 0.3 | 0.8 | 0 | 2.1 |
| | 季調済 | | | | | | | |
| | 総 合 | 100.0 | 0.7 | 0.1 | — 0.1 | — 0.3 | 0.8 | — |
| | 生鮮食品を除く総合 | 92.7 | 0.8 | 0 | — 0.2 | 0.1 | 0.3 | — |
| 全 国 | 総 合 | 100.0 | 0 | … | 0.8 | 0.4 | … | 2.3 |
| | 生鮮食品を除く総合 | 92.6 | — 0.4 | … | 0.8 | 0.9 | … | 3.0 |
| | (生 鮮 食 品) | (7.4) | (4.8) | (…) | (1.5) | (— 5.8) | (…) | (— 5.0) |
| | 特 殊 分 類 | | | | | | | |
| | 農 水 畜 産 物 | 14.2 | 1.5 | … | 0.7 | — 3.1 | … | — 2.0 |
| | 工 業 製 品 | 45.2 | — 1.1 | … | 0.3 | 1.4 | … | 2.6 |
| | うち大企業性製品 | 21.3 | 0.1 | … | 0.2 | 0 | … | 2.2 |
| | 中小企業性製品 | 23.9 | — 2.3 | … | 0.4 | 2.8 | … | 3.0 |
| | サ ー ビ ス | 34.0 | 0.7 | … | 1.4 | 0.6 | … | 3.6 |
| | 季調済 | | | | | | | |
| | 総 合 | 100.0 | 0.4 | … | 0 | — 0.2 | … | — |
| | 生鮮食品を除く総合 | 92.6 | 0.4 | … | 0.1 | 0.1 | … | — |

(注) 1. 総理府統計局調べ(55年基準)。

2. * は速報。

みをみた。地域別には、中南米を除くほとんどの地域で減少した。

なお、6月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は、-2.7%と3か月振りの減少となった。品目別には、自動車、鉄鋼はじめ多くの品目で減少をみた。

(輸入——4か月連続の減少)

5月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は、-4.9%と4か月連続の減少となり(前月-1.4%)、数量ベースでも-5.5%と減少した。品目別

(通関、数量ベース)には、前月減少の砂糖、綿花が増加したが、木材・石炭が減少したほか、原油も3か月連続の減少となった。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

| | 56 年 | | 57年 | 57 年 | | | 前年同月 |
|-------------------|------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------------|-----------------|--------------------|
| | 7～9月 | 10～12月 | 1～3月 | 3 月 | *4 月 | *5 月 | |
| 経 常 収 支 | 3,531 | 1,860 | △ 912 | 977 | 541 | 76 | △ 382 |
| 貿 易 収 支 | 7,388 | 5,685 | 2,439 | 2,022 | 1,397 | 1,301 | 809 |
| 輸 出 | 38,025 | 39,122 | 34,994 | 13,205 | 12,138 | 11,406 | 12,178 |
| 輸 入 | 30,637 | 33,437 | 32,555 | 11,183 | 10,741 | 10,105 | 11,369 |
| 貿 易 外 収 支 | △ 3,513 | △ 3,352 | △ 2,883 | △ 799 | △ 739 | △ 1,163 | △ 1,104 |
| 移 転 収 支 | △ 344 | △ 473 | △ 468 | △ 246 | △ 117 | △ 62 | △ 87 |
| 長 期 資 本 収 支 | △ 3,670 | △ 3,063 | △ 5,805 | △ 2,707 | △ 1,975 | △ 567 | △ 939 |
| 本 邦 資 本 | △ 6,198 | △ 6,864 | △ 7,435 | △ 2,965 | △ 2,079 | △ 1,987 | △ 1,287 |
| 外 国 資 本 | 2,528 | 3,801 | 1,630 | 258 | 104 | 1,420 | 348 |
| 基 礎 的 収 支 | △ 139 (△ 919) | △ 1,203 (△ 2,032) | △ 6,717 (△ 4,890) | △ 1,730 (△ 2,569) | △ 1,434 (△ 962) | △ 491 (△ 49) | △ 1,321 (△ 748) |
| 短 期 資 本 収 支 | 928 | 548 | 865 | 1,339 | △ 2,317 | 623 | 397 |
| 誤 差 脱 漏 | 585 | △ 718 | 2,561 | 970 | 568 | 1,139 | △ 248 |
| 総 合 収 支 | 1,374 | △ 1,373 | △ 3,291 | 579 | △ 3,183 | 1,271 | △ 1,172 |
| 金 融 勘 定 | 1,374 | △ 1,373 | △ 3,291 | 579 | △ 3,183 | 1,271 | △ 1,172 |
| 外 貨 準 備 増 減 | 143 | 423 | △ 1,172 | △ 891 | △ 424 | △ 264 | 391 |
| そ の 他 | 1,231 | △ 1,796 | △ 2,119 | 1,470 | △ 2,759 | 1,535 | △ 1,563 |
| 外 貨 準 備 高 | 27,980 | 28,403 | 27,231 | 27,231 | 26,807 | 26,543 | 27,735 |
| 為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン | △ 37,230 | △ 39,545 | △ 41,342 | △ 41,342 | △ 42,077 | △ 40,516 | △ 36,495 |

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。
4. *印は暫定。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

| | 国 際 収 支 ベ ー ス | | | 通 関 | | 輸 出 信用状 |
|------------------|--------------------|-------------------|-------|--------------------|-------------------|------------------|
| | 輸 出 | 輸 入 | 貿易じり | 輸 出 | 輸 入 | |
| 56 年 7 ～ 9 月 平 均 | 12,482 (－ 0.2) | 10,280 (－ 5.1) | 2,203 | 12,642 (－ 0.8) | 11,417 (－ 5.1) | 8,427 (+ 1.0) |
| 10 ～ 12 〃 | 12,503 (+ 0.2) | 10,884 (+ 5.9) | 1,619 | 12,684 (+ 0.3) | 11,920 (+ 4.4) | 8,312 (－ 1.4) |
| 57 年 1 ～ 3 月 平 均 | 12,503 (0.0) | 11,081 (+ 1.8) | 1,422 | 12,707 (+ 0.2) | 12,200 (+ 2.3) | 8,010 (－ 3.6) |
| 57 年 2 月 | 12,044 (－ 12.0) | 11,040 (－ 4.8) | 1,004 | 12,150 (－ 12.1) | 11,869 (－ 5.6) | 8,256 (+ 2.6) |
| 3 〃 | 11,784 (－ 2.2) | 10,601 (－ 4.0) | 1,183 | 12,150 (0.0) | 12,157 (+ 2.4) | 7,730 (－ 6.4) |
| *4 〃 | 12,319 (+ 4.5) | 10,450 (－ 1.4) | 1,869 | 12,441 (+ 2.4) | 11,695 (－ 3.8) | 7,753 (+ 0.3) |
| *5 〃 | 11,676 (－ 5.2) | 9,933 (－ 4.9) | 1,743 | 11,678 (－ 6.1) | 10,667 (－ 8.8) | 8,102 (+ 4.5) |

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(－)率(%)。
2. 輸出信用状接受高は特殊大口を除く。
3. *印は暫定。